

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_薬学応用Ⅱ	(TCM210)	
講義名 (コード)	TCM_薬学応用Ⅱ	(TCM210)	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM1	単位数	2単位
授業担当者	ホイ リキ ニコル	時間数	30時間
成績評価教員	ホイ リキ ニコル	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	医薬品に関する全般的な知識を修得し、日本の病院、薬局での医薬品使用実態を理解する。現場にて医師、医療者の医薬品説明を理解し、医療通訳者として患者に正確に伝える能力を修得する。
全体の内容と概要	講義と演習・模擬通訳を組み合わせ、受け身で講義を聴くだけでなく、毎回生徒に参加、発言させる。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 内服アレルギー用薬の働き・主な配合成分
2	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 内服アレルギー用薬（鼻・眼科用薬）の働き・主な配合成分
3	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 内服アレルギー用薬（鼻・眼科用薬）の働き・主な配合成分
4	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 皮膚に用いる薬（痒み・腫れ・痛みなどの抑える薬）の働き・主な配合成分
5	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 皮膚に用いる薬（肌の角質化、かさつき等の改善する薬）の働き・主な配合成分
6	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 漢方処方の基本・製剤・生薬成分
7	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 漢方処方の基本・製剤・生薬成分
8	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 漢方処方の基本・製剤・生薬成分
9	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 漢方処方の基本・製剤・生薬の相互作用・受診勧奨
10	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 漢方処方の基本・製剤・生薬の相互作用・受診勧奨
11	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 漢方処方の基本・製剤・生薬の相互作用・受診勧奨
12	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 漢方処方の基本・製剤・生薬の相互作用・受診勧奨
13	学んだことを再度総復習する	問題練習・回答
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「医薬品登録販売者試験」テキスト&要点整理 薬事日報社
参考文献・資料等	適宜プリント配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_医療知識応用Ⅱ	(TCM218)	
講義名 (コード)	TCM_医療知識応用Ⅱ	(TCM218)	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	8単位
授業担当者	山本 樹実加	時間数	120時間
成績評価教員	山本 樹実加	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は、実務経験者による授業科目である。	授業形態	講義、プレゼンテーション、演習・実習

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	授業の目的は、グローバル化が進む医療分野で活躍できる能力を身につけることである。 具体的には、医師と患者をつなぐ医療通訳の実践スキルと、医療知識の応用能力を養う。
全体の内容と概要	前半では、がんについての知識（講義）と再生医療などに関する課題作成・発表（アクティブラーニング）を行う。後半では、臨床病歴の分析と病歴の翻訳などを行う。
授業時間外の学修	AIを活用し、課題の作成や発表の練習、翻訳・通訳の準備などを求める。
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	がんについての基礎知識 討議と課題作成の実践力を養う	討 (月) 知識、ロールプレイ ; (金) グループディスカッションと課題作成 (国立研究開発法人国立がん研究センターホームページ、PDF資料など)
2	胃癌・大腸癌の基礎知識 課題発表能力と同時通訳演習	課 (月) 知識、ロールプレイ ; (金) 課題発表(細胞分裂について) (国立研究開発法人国立がん研究センターホームページ、PDF資料など)
3	肝臓癌、肝硬変の基礎知識 討議と課題作成の実践力を養う	討 (月) (課題の日) ; (金) 知識、グループディスカッションと課題作成 (国立研究開発法人国立がん研究センターホームページ、PDF資料など)
4	膵臓癌、胆道癌の基礎知識 課題発表能力と同時通訳演習	課 (月) 知識、ロールプレイ ; (金) 課題発表(DNA、遺伝子、染色体、ゲノム) (国立研究開発法人国立がん研究センターホームページ、PDF資料など)
5	乳癌、卵巣癌、子宮頸がんの基礎知識 討議と課題作成の実践力を養う	(月) 知識、ロールプレイ ; (金) グループディスカッションと課題作成 (国立研究開発法人国立がん研究センターホームページ、PDF資料など)
6	肺癌の基礎知識 課題発表能力と同時通訳演習	(月) 知識、ロールプレイ ; (金) 課題発表(免疫のメカニズムについて) (国立がん研究センター東病院 ホームページ、PDF資料など)
7	呼吸器疾患 討議と課題作成の実践力を養う	討 (月) 臨床知識、ロールプレイ ; (金) グループディスカッションと課題作成 (日本呼吸器学会ホームページなど、PDF資料など)
8	脳腫瘍；脳血管障害 課題発表能力と同時通訳演習	(月) 臨床知識、ロールプレイ ; (金) 課題発表(再生医療に関する) (国立研究開発法人国立がん研究センターホームページなど、PDF資料など)
9	循環器疾患 病歴翻訳技能の習得	病 (月) (課題の日) ; (金) 臨床知識、ロールプレイ (慶応大学病院 医療・健康情報サイト、PDF資料など)
10	代謝・リウマチ性疾患 病歴翻訳技能の習得	(月) 臨床知識、ロールプレイ ; (金) 病歴翻訳実技 (慶応大学病院 医療・健康情報サイト、PDF資料など)
11	甲状腺疾患；貧血 病歴翻訳技能の習得	(月) 臨床知識、ロールプレイ ; (金) 病歴翻訳実技 (京都医療センターホームページ、PDF資料など)
12	腎・尿路疾患；感染症 病歴翻訳技能の習得	(月) 卒業旅行；(金) 臨床知識、病歴翻訳実技 (慶応大学病院 医療・健康情報サイト、PDF資料など)
13	救急医療 病歴翻訳技能の習得	(月) 臨床知識、ロールプレイ ; (金) 病歴翻訳実技 (済生会のホームページ、救急医療現場の動画、PDF資料など)
14	期末試験	(月) 期末課題発表 (金) 病歴翻訳技能期末試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	担当講師がPDF等を適宜用意する。
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	TCM_医療会計		(TCM222)
講義名 (コード)	TCM_医療会計		(TCM222)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM1	単位数	4単位
授業担当者	伊藤 玲	時間数	60時間
成績評価教員	伊藤 玲	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	調剤薬局の事務スタッフとして、日常業務を遂行できる知識を身につけ、調剤報酬請求に関する知識と技能を習得する。加えてスキルの証として「調剤事務管理士」の資格取得を目指すことができる。
全体の内容と概要	医療機関で医師が処方箋を発行し、調剤薬局で薬を調剤する「医薬分業」が進んでいることを踏まえて、処方箋の受付から会計までの流れ、調剤報酬の仕組みについて演習を行いながら理解を深めます。
授業時間外の学修	知識の精度を上げるために復習をすること。
履修上の注意事項等	テキストの他に、電卓を使用します。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	医療保障制度、保険給付、その他の医療保障制度を理解する	医療保険、保健給付のしくみ、その他の医療保障制度
2	薬局の基礎知識、調剤薬局での事務の仕事を理解する	薬局の基礎知識、日常業務と請求事務
3	処方箋の基礎知識、薬剤の基礎知識、算定の基礎知識を習得する	処方箋の基礎知識、薬剤の基礎知識、算定の区分
4	算定に必要な用語、調剤基本料を理解する	調剤報酬の算定単位、調剤報酬算定のルール、調剤基本料
5	薬剤料、特定保険医療材料料の計算方法を習得する	薬剤料の算定、特定保険医療材料料の点数換算
6	薬剤調製料の算定を理解する	薬剤調製料の算定、薬剤調製料の加算
7	薬剤調製料の加算を習得する	薬剤調製料の加算の算定演習
8	薬学管理料の算定を理解する	調剤管理料、服薬管理指導料、外来服薬支援料
9	調剤報酬の算定、会計表の記入を習得する	調剤報酬算定のまとめ、会計表の記入演習
10	レセプトの基礎知識を理解する	レセプト作成のルール、レセプトの基礎知識
11	レセプト記載ルールを習得する	レセプト記載ルール、レセプト記載演習（基本・応用）
12	レセプトの点検、医薬品の基礎知識を理解する	レセプトの点検、医薬品の基礎知識、薬物治療の概要
13	試験対策（学科・実技試験）	学科試験問題演習、要点整理／実技試験問題演習、要点整理
14	成績考課試験を実施する	成績考課試験（実技・学科）
15	試験内容の復習を行う	試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	テキスト1 医療保障制度、テキスト2 調剤報酬の算定、レセプト記載ルール、トレーニングブック、資料ブック、調剤レセプト集、薬価表（株式会社ソラスト）
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_医療通訳応用Ⅱ	(TCM220)	
講義名 (コード)	TCM_医療通訳応用Ⅱ_A	(TCM220A)	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM1	単位数	4単位
授業担当者	医信株式会社	時間数	60時間
成績評価教員	医信株式会社	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	医療通訳における必要な関連知識や語彙、能力と技能を持ち、医療現場で実践可能にする。医療機関で健診のお客様の医療通訳が行えるようになる。
全体の内容と概要	4回の現場ロールプレイ授業を通じて、健診医療通訳の基本知識と知識スキルを習得。代表的な医療機関の健診結果レポートを例として、翻訳する際の注意事項などを説明。健診結果レポートから厳選した内容を翻訳。外来一般診察、検査の手続きや流れ、注意事項の説明
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・健診でよく出る医療専門用語を暗記 ・血液検査用語、よく使う薬剤用語 (中国語・日本語)
履修上の注意事項等	授業は予習・復習をしていることを前提に進めるため、必ず自主学習を行うこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	通訳者に対する基本素質要求ルールを守る 各医療機関の特徴概要を理解する	医療通訳者に必要な基準、マナー、基本論理を講ずる。 癌研有明病院、慶応義塾大学病院、国立国際医療研究病院、日本医大など各病院の人間ドックセンターの検査項目の特徴を説明する。
2	問診と健診問診票の記入ができる	各医療機関の問診表の特徴と記入方法の説明 問診表を配布し、生徒が自分で記入するようにする。
3	検査項目の目的、検査方法、注意事項を理解する	検査のすべて（各検査の概要） 上腹部超音波検査、PETCT、MRI検査、胃カメラ検査
4	健診の医療通訳の基本スキルができる	現場の模擬体験、ロールプレイで練習
5	健診の医療通訳の基本スキルができる	現場の模擬体験、ロールプレイで練習
6	健診の医療通訳の基本スキルができる	現場の模擬体験、ロールプレイで練習
7	健診の医療通訳の基本スキルができる	現場の模擬体験、ロールプレイで練習
8	現場におけるトラブル発生時の対応 健診レポート翻訳の基本スキルができる	具体的な例を上げ、医療通訳者の仕事範囲と責任範囲を指定することで、なるべく現場で発生可能なトラブルを避ける 健診報告書に、よく使う医療単語/用語及び文例集の説明
9	健診レポート翻訳の基本スキルができる	健診レポート翻訳練習
10	健診レポート翻訳の基本スキルができる	健診レポート翻訳練習
11	健診レポート翻訳の基本スキルができる	健診レポート翻訳練習
12	中国人が来日治療の現状を理解する 外来医療通訳の基本スキルができる	中国人が来日して受診する主な疾患の診察、検査方法、注意事項などの説明
13	日本の先端医療を理解する 期末試験の範囲を理解する	中国人よく知りたい日本先端医療の説明 授業の主な内容を復習する
14	期末試験	筆記テスト と 口頭試験
15	返却と解説	テストの結果を解説する

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	医信編集によるオリジナルテキスト
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_美容通訳	(TCM224)
講義名 (コード)	TCM_美容通訳	(TCM224)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年 2年生
対象コース	CM1	単位数 2単位
授業担当者	徐 磊	時間数 30時間
成績評価教員	徐 磊	講義期間 秋学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	本講義は関連業界で活躍した講師による授業である。	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通訳現場知識、美容整形基礎知識の学びの中で、学生が美容整形業界のイメージが付き、手術、施術される体の部位、それから関連性がある専門用語に対して、日中通訳・翻訳ができる。
全体の内容と概要	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、授業前半で、10個の専門用語の理解度を確認する。 ・メスを使わず低侵襲系と外科手術系二分野の美容整形方法。美容整形業界現状と通訳現場注意点。
授業時間外の学修	授業後に、新出語彙の読み方と意味を調べること。
履修上の注意事項等	期末試験は学生が各美容整形手術の全般的な把握状況を検証するため、必ず自主学習を行うこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	美容整形通訳という職業の紹介と現場注意	美容整形通訳という職業の紹介と理論、論理説明。通訳現場における細かい注意点の説明。
2	美容整形の入門、業界全体についてイメージできる	日本美容業界の現状。美容に関する日中韓3カ国の動向など。
3	美容整形マーケティング情報の把握	美容整形マーケティングと動向
4	美容整形における解剖学の知識を把握	美容整形通訳における吸収必要な解剖学知識 皮膚、輪郭、目、鼻、豊胸など。
5	手術療法の理解と吸収 1	美容整形通訳に必要な外科手術の知識 目：二重まぶた形成&傷跡修正、鼻：隆鼻（ロールプレイ） ※小テスト
6	手術療法の理解と吸収 2	美容整形通訳に必要な外科手術の知識 口：唇 ※小テスト 顔：輪郭（ロールプレイ）
7	手術療法の理解と吸収 3	美容整形通訳に必要な外科手術の知識 バスト：豊胸 ※小テスト 痩身・脂肪吸引（ロールプレイ）
8	非手術療法(低侵襲療法)の理解と吸収	美容整形通訳に必要な低侵襲療法の知識 注入療法：シワ・美肌/たるみなど レーザー療法(あざ/しみ)糸療法※小テスト
9	その他療法の理解と吸収	美容整形通訳に必要なその他療法の知識 抗加齢医学：各種注射 ※小テスト 予防医学：予防注射治療・各種検査
10	美容通訳士の対応姿勢・質問回答	通訳現場、そして現場以外にお客対応に注意事項、美容整形の客心理など過去の授業に対する質問回答など ※小テスト
11	ビジネスマナー通訳士マナーを身につける	一般の社会人としての基本マナー 通訳士として特に注意すべきマナー
12	期末試験	オープン試験のレポート作成
13	期末プレゼン1	チーム毎に選んだテーマを発表
14	期末プレゼン2	チーム毎に選んだテーマを発表
15	成績発表と再テスト	※小テストの再テストチャンス

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	担当教師が用意するプリント
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	情報リテラシー II	(TCM212)
講義名 (コード)	情報リテラシー II	(TCM212)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年 1年生
対象コース	CM2	単位数 2単位
授業担当者	伊藤 玲	時間数 30
成績評価教員	伊藤 玲	講義期間 秋期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	人間力における、社会人教育分野の学びの中で、学生がビジネスで使用されるデータ管理に必要なICT活用を習得して、MOS Excel 2021/365に合格できるExcelスキルを身に付ける。
全体の内容と概要	ビジネスに必須のMicrosoft Excelに関する操作スキルを身に付け、効果的なデータの集計・編集方法、実践的なワークシートやブックの管理、さらにネットワークドライブの利用ができるようにする。
授業時間外の学修	学習に使用するファイルはFOM出版のサイトからダウンロードできる。授業内でつまづいた部分などは各自復習しておくこと。
履修上の注意事項等	Excelの基本操作から学習するが、普段からPC操作やリボンやタブの使い方に慣れておくこと。尚、授業進度により、適宜内容を変更する場合がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ガイダンス・前期学んだことが実践できる、他ソフトとの連携ができる	ExcelとPowerPointの連携、PowerPointの基本の使い方 ※PowerPoint部分は資料を配布
2	効率的な表作成ができる	データの入力、表作成（前期の復習を含む）
3	シートの管理ができる	複数シートの操作
4	Excelで作成した表を印刷できる	表の印刷、ページレイアウト設定
5	グラフやオブジェクトの作成ができる	グラフの作成、グラフの書式設定（前期の復習を含む）
6	効率的なデータの活用ができる1	Excelデータベース機能の利用1
7	関数を利用できる	関数と関数のネスト
8	複雑な表を作成できる	表作成の活用
9	データを視覚的に表現できる	グラフの活用
10	視覚的な要素を表に追加できる	グラフィックの利用
11	効率的なデータの活用ができる2	Excelデータベース機能の活用2
12	データを多角的に分析できる	ピボットテーブルとピボットグラフの作成
13	便利な機能が利用できる	記録マクロ（操作の記録と再現）、その他の機能
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	今回は、学習教材として、linkedin「EXCEL基本講座」を利用する。このため、章立てなどの変更をすることがある。
参考文献・資料等	参考動画： https://www.linkedin.com/learning/excel-essential-training-microsoft-365-26102908/4037364?u=277640412
備考	スムーズな操作のために、各自、日本語の教科書などを復習し、よく使われる漢字の読みや日本で使われるビジネス用語を理解しておくことが望ましい。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_ビジネスマナーⅣ	(TCM214)	
講義名 (コード)	TCM_ビジネスマナーⅣ	(TCM214)	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	2単位
授業担当者	伊東かつみ	時間数	30時間
成績評価教員	伊東かつみ	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、複雑な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体の内容と概要	就活やビジネスで使用する語彙を理解し、頻出漢字を書けるようになる。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	配布したプリントは各自ファイルしておくこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	「サービス敬語」、研修やインターンシップに備える	・失礼な表現、前期の復習
2	「サービス敬語」、研修やインターンシップに備える	・面接官の気持ち ・面接演習
3	相談をされた時の返答の仕方を身につける	・人事採用者の立場 ・必要な能力、人間関係の処理の言葉
4	自分の意見を言う場合の話し方を身につける	・自己アピールを敬語を使って ・企業のほめ方
5	面接での話し方を身につける	・相手のほめ方 ・
6	電話での話し方を身につける	・電話でのクレームの受け方 薬を間違えた、
7	他者への質問の仕方を身につける	・クレームの処理 謝り方 相手を立てる
8	上司へ失礼のないように報告することができるようになる	小テスト；面接の実践練習
9	上司へ失礼のないように報告することができるようになる	・上司への報告
10	司会を行う際に必要な敬語表現を身につける	・プレゼンテーションの練習 「手術患者への対処」・グループワーク
11	メールの敬語表現を身につける	・プレゼンテーションの練習 「入院患者の対処」・グループワーク
12	メールの敬語表現を身につける	・メール文の練習、謝罪、報告、意見 グループワーク
13	テストの説明、練習	テストの練習
14	後期期末試験	学期試験 口頭テスト クレーム対処
15	テスト解説	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「上級レベルロールプレイで学ぶビジネス日本語-終活から入社まで」 スリーエーネットワーク出版
参考文献・資料等	ビジネス常識のppt：「日本企業での働き方」「報連相と確認の基礎」 その他動画等
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_キャリアデザインⅣ	(TCM216)
講義名 (コード)	TCM_キャリアデザインⅣ	(TCM216)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年 2年生
対象コース	CM1	単位数 2単位
授業担当者	高橋 春子	時間数 30時間
成績評価教員	高橋 春子	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	卒業後の進路を確定させる
全体の内容と概要	卒業後の進路を確定させるために学び、活動する
授業時間外の学修	卒業後の進路先への訪問や受験等の実施
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行います。満たない場合には単位不合格になることもある

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	夏休みまでの振り返りと今後について	これまで自分が実施してきたことのまとめと共有
2	履歴書と面接内容について①	大学進学や就活に向けての履歴書と面接応答内容のアップデート①
3	履歴書と面接内容について②	大学進学や就活に向けての履歴書と面接応答内容のアップデート②
4	履歴書と面接内容について③	大学進学や就活に向けての履歴書と面接応答内容のアップデート③
5	なぜ卒業後の希望する進路が確定できないのか①	これまでの自分の行動の振り返りと、今後すべきことの洗い出しを行う
6	企業が欲しがらる人財と就活	「社会人基礎力」から企業が必要とする人財について知り、自分を振り返る
7	履歴書のアップデート	前回の授業の内容から履歴書のアップデートを行う
8	面接応答内容のアップデート	前回・前々回の授業の内容や自分の振り返りから面接での応答内容について考える
9	確定した進路のために必要なこと	進学・就職までにすべきことを考え、実施の計画を立てる
10	卒業までにすること①	学生の内にしておくことを考え、実施のための計画を立てる①
11	卒業までにすること②	学生の内にしておくことを考え、実施のための計画を立てる②
12	後輩に向けて	卒業後の進路のための自分の活動を振り返り、後輩へのアドバイスをまとめる
13	テスト前まとめ	これまでのまとめとテストに向けて準備する
14	期末試験	期末試験
15	復習等	復習等

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	特になし
参考文献・資料等	必要な場合には随時指示します
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_ビジネスコミュニケーションⅡ	(TCM206)
講義名 (コード)	TCM_ビジネスコミュニケーションⅡ_A	(TCM206A)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年 2年生
対象コース	CM2	単位数 2単位
授業担当者	竹内 通子	時間数 30時間
成績評価教員	竹内 通子	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が自分とは異なる様々な主張を様々な形式の文章から読み取れるようになる。正しい敬語を使い会話できる能力を養う。
全体の内容と概要	医療を中心に様々な事柄の文章を読み、ディベートや発表などの活動を通してその事柄だけでなく他者の主張も深く理解していく。高度な日本語表現を習得する。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	より多角的な視点で問題を捉え、客観的かつ論理的に自分の意見を発表することができる。	予約を受ける JTEST105回
2		サービスの敬語 JTEST106回
3		ビジネスシーンの会話、ペアワーク JTEST107回
4		相談を受ける JTEST108回
5	グループのスケジュール管理や統一目標の維持、方向性の調整などを意識し、グループワークが円滑に行える方法を見出す。	スピーチをする 発表
6		面接の練習 ペアワーク JTEST110回
7		電話の敬語 ペアワーク JTEST111回
8		インタビューする ペアワーク JTEST112回
9	より豊かな表現力で発表することができる。	報告をする グループワーク JTEST113回
10		司会をする グループワーク→発表 JTEST114回
11		ビジネスのメールを書く JTEST115回
12		敬語を使わない会話 グループワーク JTEST116回
13		後期のまとめ
14	期末試験	学期末試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「新にほんご敬語トレーニング」
参考文献・資料等	JTEST過去問題
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_コミュニケーションⅡ	(TCM208A)
講義名 (コード)	TCM_コミュニケーションⅡ_A	(TCM208A)
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年 2年生
対象コース	CM2	単位数 2単位
授業担当者	中村 久子	時間数 30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間 秋学期
実務者教員		履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 ロールプレイ

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が自分とは異なる様々な主張を理解するために、様々な形式の文章から統合的に必要な情報を読み取れるようになる。
全体の内容と概要	生教材を使い時事や医療を中心に様々な事柄の文章を読む。また、ロールプレイや発表などの活動を通してその事柄だけでなく他者の主張も深く理解していく。高度な日本語表現を習得する。
授業時間外の学修	文法問題をあらかじめ解き、問題点などをまとめたうえで授業に臨むこと。
履修上の注意事項等	会話や情報を正しく、明確に表現するため、積極的に授業に参加する姿勢が必要となる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	テーマ探求① テーマについて理解を深め自身の考えを伝えることができる。	テーマについて理解を深める
2	時事問題① 時事について意見を交換することができる。	時事について意見交換 20日で合格N1 文法 ①
3	時事問題② 時事について意見を述べるができる。	時事について意見をまとめる 20日で合格N1 文法 ②
4	語彙探求① 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	テーマについて理解を深める 20日で合格N1 文法 ③
5	語彙探求② 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	通訳ロールプレイ・BJT読解 20日で合格N1 文法 ④
6	テーマ探求② テーマについて理解を深め自身の考えを伝えることができる。	テーマについて理解を深める 20日で合格N1 文法 ⑤
7	時事問題③ 情報を正しく理解することができる。	時事について意見交換 20日で合格N1 文法 ⑥
8	時事問題④ 時事について他者の意見を聞き自身の主張をすることができる。	時事について意見交換 20日で合格N1 文法 ⑦
9	時事問題⑤ 時事について他者と意見交換し、考えをまとめること	時事について意見交換 発表
10	語彙探求④ 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	通訳ロールプレイ 20日で合格N1 文法 ⑧
11	語彙探求⑤ 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	通訳ロールプレイ 20日で合格N1 文法 ⑨
12	語彙探求⑥ 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	通訳ロールプレイ 20日で合格N1 文法 ⑩
13	後期のふりかえり	後期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『20日で合格N1』
参考文献・資料等	適宜プリント配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。